

多様なニーズに対応した道路空間の利活用や再構築に向けて

(研究期間：令和元年度～)

道路交通研究部 道路環境研究室

室長 大城 温 研究官 長濱 庸介 交流研究員 蓮尾 信彰



(キーワード) 道路空間の利活用、道路空間の再構築 賑わいの創出

3.

豊かで暮らしやすい地域・環境を創る研究

1. はじめに

道路空間に対するニーズは、社会・経済情勢に応じて変化しており、自動車の安全かつ円滑な通行に加えて、近年では、賑わいの創出や空間の有効活用等のニーズが高まっている¹⁾。そこで国総研では、地域の課題やニーズに応じた道路空間における賑わいの創出に寄与する、道路空間の利活用や再構築の実現に向けた研究を進めている。

2. 道路空間の利活用に関する事例調査

限られた道路空間において多様な利活用ニーズに応えるためには、道路や沿道の特性に応じた利活用を行う必要がある。そこで、道路空間と民間所有地の一体的な利活用により、賑わい空間の創出に寄与している事例を対象としたヒアリング調査を実施し、空間の利用状況、取組みプロセス、利活用における課題等を把握した(写真-1 左側)。

また、新型コロナウイルス感染症に対応し沿道飲食店等の路上利用に伴う占用許可基準の緩和措置²⁾を適用した事例についてもアンケート調査や現地調査等を行っており、調査結果から得られた課題や特徴等を整理した(写真-1 右側)。



写真-1 道路空間の利活用に関する事例

- 写真左：東京都千代田区 丸の内仲通り（昼の時間帯は車道を歩行者へ開放し、休憩施設やオープンカフェ等を設置）
- 写真右：京都市 河原町蛸薬師商店街（緊急措置として緩和された道路占用許可基準が適用され、テイクアウトやテラス営業を実施）

3. 道路空間の再構築に関する事例調査

バイパス整備による自動車交通量の減少後の現道においては、道路空間に対するニーズが変化するため、車線数を減らして歩行者交通や賑わい創出のための歩道を広げる等の再構築を行うことが考えられる。道路空間の再構築には、周辺道路のネットワーク構成、それぞれの道路の役割や位置づけを踏まえ、限られた道路空間を有効活用することが考えられる。そこで、バイパス整備等に伴う現道空間の再構築事例について事業主体へヒアリング調査を行い、賑わい空間創出の工夫点や再構築の検討・実施にあたっての技術的、制度的課題等を把握した(写真-2)。

4. 今後の予定

本研究の成果は、道路管理者や地方公共団体向けの事例集として公表する予定である。

☞詳細情報はこちら

- 1) 国土交通省道路局：「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会
https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/diverse_needs/index.html
- 2) 国土交通省道路局：「新型コロナウイルス感染症に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用について」
<https://www.mlit.go.jp/road/senyo/03.html>

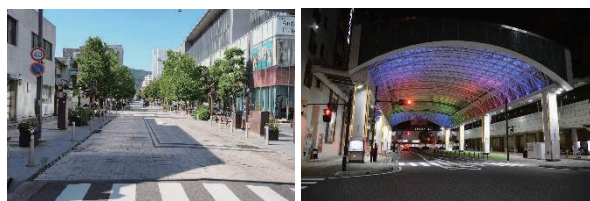


写真-2 道路空間の再構築に関する事例

- 写真左：長野市 市道長野中央通り線（交通セル方式における外周道路の完成後に、車道幅員の削減、歩道の拡幅が実施された）
- 写真右：鳥取市 市道駅前太平線（鳥取環状道路の完成後に、車線数の削減、歩道の拡幅、芝生広場の整備が実施された）